

らびプラス

長時間の歩行が難しいなど、体力の不安から旅行をためらう高齢者は少なくないのではないかと。一部の旅行会社が提供するシニア向けサービスを利用すれば、車いすの人も快適に旅に出られる。移動やトイレ、ホテル客室などにバリアフリーの配慮があったり、介助スタッフが同行したり。旅の選択肢は広がっている。

いつまでもお得旅

「旅行中、夫が元気で笑顔が多かったことが一番うれしかった。宮城県在住の片山さん(仮名、66)は5月、妻(64)と夫(64)の車いすを押し、ドイツのロマンチック街道をめぐる6日間の旅行を楽しんだ。「最初は不安だったが、添乗員や航空会社の人がかまってくれてくれた」と振り返る。

リフト付きバス

片山さんが参加したのは旅行会社、クラブツーリズムの団体ツアー「バリアフリーの旅」。旅先では車いすで降りできるリフト付きバスで移動し、トイレ休憩は少なくとも1時間半に一回が原則。足腰に負担が少ないベッドで寝られる客室やトイレ、浴室で使うイスや滑り止めマットも貸し出す。日帰りのツアーから海外旅行まで参加者は年間約1万人にのぼる。

「ヨハネスブルク空港に到着し、搭乗手続き開始です」「無事にチェックイン手続きを終了し、安心です」。エイチ・アイ・エス(HIS)は昨年からのインターネット上の短文投稿サイト「ツイッター」で、車いすで参加できるツアー「旅なかま」の様子を写真

体に不安あっても快適に



バリアフリー旅行はリフト付きバスを利用することが多い(クラブツーリズムのツアー)

ツアー、個人手配より割安

入りに発信している。投稿は1日平均で約20回。参加者が旅先で元気に過ごしているか気に掛ける旅行者の家族らに好評という。同ツアーは海外、国内それぞれ年間15、20回あり、約500人が参加する。旅行中の写真や喜びのコメント、ツアーを紹介する会報誌も発行。足腰が弱いので海外旅行はあきらめていたという千葉県在住の中野恵子さん(同、78)も、同社から車いすを借りられ、個人手配より割安に利用できる。ただしバリアフリーを考慮して個人旅行計画をた

旅行各社のバリアフリーサービス	
クラブツーリズム	団体ツアー「バリアフリーの旅」は車いすで参加可能。旅行代金の一部を負担すれば、車いすを押したり、トイレ介助をしたりする「トラベルサポーター」が同行。体力に自信がない人のためのツアー「ゆつたり旅」は杖(つえ)が必要な人が参加できるコースも多い
エイチ・アイ・エス	団体ツアー「旅なかま」は車いすで参加可能。旅行代金の一部を負担すれば介助ボランティアが同行。家族向けに添乗員が「ツイッター」で旅の実況中継を発信
JTB	70歳代向けの高級団体ツアー「ゆとり紀行」を用意。宿泊はベッドのある洋室か和洋室、食事はイス席を確保
ANAセールス	車いすの人や体力に不安のある人のツアー参加について相談に乗る電話窓口を設置
SPI(あ・える倶楽部)	要介護の高齢者向けに「トラベルヘルパー」が同行する個人旅行を手配。ヘルパーのサービスは入浴介助など。時間制の利用も可能

おさいふナビ



HISのバリアフリーの団体ツアー「旅なかま」はリピーターも多い

バリアフリー配慮／ヘルパー同行

てるのは簡単ではない。宿や出発のトイレなどの情報収集や、車いすで乗れるタクシーの手配など手間がかかり、費用はツアーよりさらに割高になる。一般的に、バリアフリーの団体ツアーでも、添乗員は特定の参加者に付きつきりて車いすを押し、トイレや入浴、食事の介助をしたりはできない。だが、最近は世話をしてくれる家族の都合がつかない場合は、旅行会社が同行者を紹介する仕組みもある。

時間制サービスも

クラブツーリズムはホームヘルプ資格を持つ人約300人が「トラベルサポーター」として登録。車いすを押すなどの軽いサポートなど参加者がツアー料金の60～70%、トイレ介助などを希望する場合は、100%を負担すれば、専属サポーターとして同行してくれる。HISにも旅行介助ボランティアという同様の仕組みがある。個人で介助者を雇うのには比べてかなり割安だ。要介護の高齢者が車いす

る。参加人数を10、20人に抑えるため、バスや現地ライドの費用が割高になる。ただ、安全のために添乗員を2人付けることもある。料金目安はクラブツーリズムで一般ツアーの1.5倍から2倍。片山さんのツアーは燃油特別付加運賃(燃油サーチャージ)別で1人34万8千円だ。HISは2、3割増しという。

で車椅子したり、友人を訪ねたりする介護旅行を手配する旅行会社もある。SPI(東京・渋谷)は「あ・える倶楽部」ブランドで個人の希望に合わせた介護旅行を年間500件ほど取り扱ってきた。全国の介護事業所で働くスタッフら約700人を「トラベルヘルパー」として組織し、旅行に同行し必要な介助をする。トラベルヘルパーは段差での車いすの扱いやトイレや入浴の介助に慣れている。埼玉県坂本信子(同、59)は特攻隊の生き残りの父(89)を鹿児島県の知覧に連れて行く旅行で利用。「オーグメントだから周りに気兼ねしなからしいし、父とヘルパーの相性もいい。元気になり、父が最近よく笑うようになった。重慶の要介護施設の利用料金は1日2万5千円。出発日から2、3日前に同行する場合は、ホテルなどの実費もかかるが、旅先で現地在住のヘルパーに Outreach(アウトリーチ)して入浴介助などの時間制サービスもある。

観光庁が昨年、旅行会社のバリアフリー旅行に対する将来的な取り組み姿勢を調査したところ、「かなりの積極的」「積極的」との回答が合計8割に達した。バリアフリーの団体ツアーなどを提供していない旅行会社でも、予約を取り扱う宿泊施設の客室や設備、食事などの情報はある。いつまでも元気に旅行をしたい。その気持ちはある。体力の不安があるから、まずは電話や店舗で相談してほしい。思いの外、気軽に旅ができる環境は整っている。(表情志)

コチです!